

いまもあしたも誇れる座間であるために...

発行者：おぎはら健司  
メールアドレス：info@ogiharakenji.com  
連絡先：042-705-5119 (ファックスも同じ)

# おぎはら健司の市政リポート

## 座間総合病院開院へ。

いよいよ4月1日に待望の「座間総合病院」が開院する事となり、去る26日(土)に開院式が挙行され、内覧会を兼ねて参加して参りました。

まず、良く勘違いされている点について説明を申し上げますと、今回、キャンプ座間返還跡地に開院する病院に間し、「せっかく病院が出来るのに、うちからは遠くて行けないよ」という声を耳にしますが「座間総合病院」は座間市が運営する公立病院ではなく、海老名市にある「海老名総合病院」を運営する「ジャパンメディカルアライアンス」が運営する民間病院という点ですが、今日まで座間市民が救急搬送をされる際、市内に救急対応をして頂ける病院が二院しかなかったため、80%近い患者さんが市外へ、更にそのうちの半分ぐらいの患者さんが相模川を渡って厚木市内の病院に搬送をされている現状を、座間市内で80%の受け入れが出来ることになるという期待が持てる、座間市民のための病院という事が言えます。

総合診療科を筆頭に、一般内科や外科、人工関節・リウマチセンターなど、計17科を配置し、病床数が352床という大規模な総合病院となり、二次救急病院の空白地帯であった神奈川県中央医療圏に待望の救急体制を完備する病院が完成したとも言えます。

キャンプ座間返還予定地への病院誘致については、私が甘利代議士の秘書時代であった平成22年に遡るのですが、遠藤市長がアイデアを持ち込まれた際「そんな多元連立方程式、良く考えたね！それなら市民にも納得頂ける事業に出来る！」と驚いた甘利代議士と遠藤市長の面談が、つい昨日の事のように思い出されます。

いずれにしても、座間市民が救急を必要とする症状を発症した際の受け入れ体性が整う事で、市民の安全・安心が更に充実する事となり、合

わせて新年度から建設に着工される新消防庁舎を加えて、医療と消防の拠点が構築される事になります。

消防庁舎の運用について付け加えれば、座間総合病院に通じる県道51号線いわゆる行幸道路の交差点改良についても先日完成し、相模が丘方面からキャンプ座間正門方面へ通行していても右折して病院へアクセスできるようになると同時に、新消防庁舎や病院からも直進・右左折各方向へ進入できるようになりました。

また、病院へのアクセスの利便性を向上させるべく、また、相模が丘地域住民の期待に応えるべく、市が民間に委託しているコミュニティバスのルート等についても見直しが見込まれており、市政進展が着実に進んでいます。

## 第一回定例会最終日の異変

去る25日に第一回定例会が閉会しましたが、その最終日、ある会派から甘利代議士の一連の金銭授受疑惑に対する全容説明を求める意見書が提出されました。これらについては、色々な考え方がある事は認識しておりますが、この件は刑事告発がなされ、その説明は司法当局へ委ねられており、静観すべきと個人的には考えておりますが、今回は座間市議会として前代未聞となる、タイトルに個人名が表記されるものとなりました。せめて個人名を削除すべきと主張しましたが受け入れて頂けず、仮に無罪判決となれば名誉毀損ともなり得るような暴挙と言わざるを得ません。

また、その討論の最中、沖永議員は病氣療養中の甘利代議士に向けて、一般的には故人に向けて使われる「安らかにお眠りいただけるよう」という非常識甚だしい表現を使われました。

同じ議員として、また、人としてあるまじき言動であり、強く批難する次第です。